

「病診連携」という言葉もなかった頃から、30年以上のおつきあいです。

—当院に患者さまを紹介するようになったきっかけは？

父の後を引き継いだのが昭和51年。当時は「病診連携」という言葉もなく、入院や精密検査が必要な患者さまは、個人的つながりで大病院の先生にお願いするしかありませんでした。ところが信頼できる先生がなかなか見つからない。そんななか、山口病院の理事長(当時院長)と知り合い、医療に対する使命感と献身的な姿勢に心を打たれ「この病院なら大切な患者さまをお任せできる」と思いました。

—主にどんな症例が多いのですか。

CTやMRIによる検査や、骨折手術、入院などです。検査や手術を終えたら、きちんと報告もしてくださり、的確な医療をスムーズに患者さまに提供できるので助かっています。細川医院を引き継いで37年。ここまで続けることができたのは、山口病院のおかげでもあると心から感謝しています。

—地域医療についてメッセージをお願いします。

山口病院のような100床前後の病院は、地域では不可欠の存在です。近隣の開業医はもっと山口病院との連携を深めるなどして、みんなで応援していきたいですね。

(院長 細川孝先生)



父が昭和51年に亡くなって3代目院長に。南区の医師会「南和会」を立ち上げたり、名古屋市医師会の会長を務めるなど、地域の医療発展に貢献。

▲皮膚科医師である奥様は良きパートナー。



細川内科・皮膚科
愛知県名古屋市南区桜本町2丁目20
TEL. 052-822-2100
診療科目:内科、皮膚科、循環器科、小児科

今号の表紙

そぶえちよう
場所:祖父江町(愛知県稲沢市)

銀杏の生産量日本一を誇る祖父江町は、晩秋になるとイチョウの黄葉がまぶしいほどの美しさ。恒例『そぶえいちょう黄葉まつり(11月23日~12月3日)』開催中は出店が並び、夜はライトアップも。写真は祐専寺周辺。



理念 家族を想う気持ちを大切にしたい

基本方針

1. 患者さま本位の医療

…患者さまに対して家族や大切な人を想う気持ちを持って接するよう心がけます。

2. 地域への貢献

…24時間体制で地域住民に対して安心できる医療を提供できるよう努力します。

3. 向上心と信頼関係

…私たち職員は、常に向上心を持ち、お互いに尊敬し、信頼できる関係でありたいと思います。

■ 診療科目

一般診療 整形外科、内科、外科、消化器科、脳神経外科、リウマチ科、リハビリテーション科、皮膚泌尿器科、肛門科、放射線科、麻酔科

特殊診療 CPAP(睡眠時無呼吸症候群治療)、AGA(男性型脱毛症) 在宅酸素療法、禁煙治療、ED(勃起障害治療)

■ 病床数 60床(うち亜急性病床 10床)

■ 診療日

	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00~12:00	●	●	●	●	●	●	×
午後 4:00~ 6:00	●	●	●	●	●	×	×

休診日/日曜日・祝日・土曜日午後 ※救急・ケガ等の場合はいつでも診療いたします(24時間体制)

医療法人 山和会 山口病院

〒457-0836 名古屋市南区加福本通3-28

TEL **052-611-6561**(代) FAX **052-613-0333**

名鉄:「大江駅」下車、南へ150m
市バス:新瑞橋13系統(左回り)/新瑞橋14系統「港東通」下車 神宮15系統「大江駅前」下車

日本医療機能評価機構認定病院

当院では、医療の質向上の取り組みとして、財団法人日本医療機能評価機構による審査を受け、平成22年4月2日付で認定されました。



<http://www.yamaguchi-hp.jp>

ケータイ・スマートフォンサイトもご覧ください



やまぐち

患者さまと病院をつなぐ広報誌

2013 Autumn

健康シリーズ

「胃潰瘍」

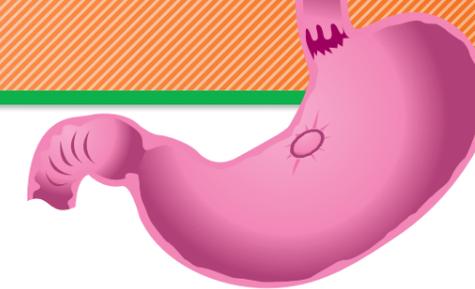
早期発見・早期治療のために、知っておきたい胃潰瘍のしくみ

●部門紹介【栄養科】

●地域医療にクローズアップ【細川内科・皮膚科】



ストレスやピロリ菌が引き金となる胃潰瘍



高齢者は症状に気づかないケースも

胃潰瘍とは、胃の粘膜が障害を受け、胃壁が胃酸に溶かされてへこみ、穴のようになった状態のこと。十二指腸にできた潰瘍は「十二指腸潰瘍」といいます。

胃潰瘍の代表的な症状は「胃の痛み」。みぞおちのあたりがシクシクしたり、キューッと痛むのが特徴です。空腹時に痛みが発生しやすく、特に十二指腸潰瘍はこの傾向が強いとされています。傷ついた粘膜からの出血で、血液が便に混じったり、黒い便(タール便)が出たり、ひどい場合は血を吐いたり、貧血が起こるケースも見られます。

ただし、別の病気で消炎鎮痛薬を服用している人や、痛みを感じにくくなっている高齢者は「何となく胃が重い」と感じる程度で、潰瘍が見逃されやすいので注意が必要です。



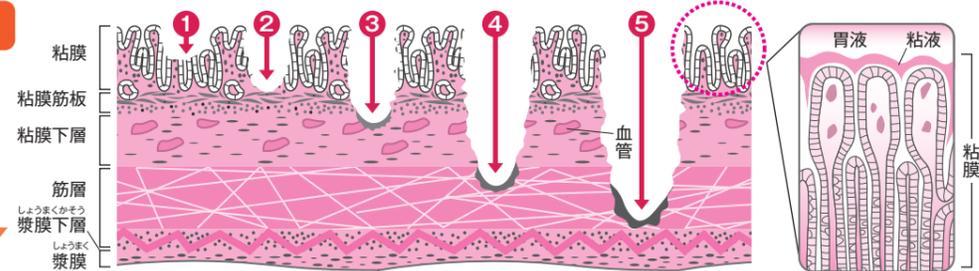
胃潰瘍の要因として、過度のストレス、薬の副作用、ピロリ菌、アルコールなどが挙げられます。平成23年の胃潰瘍の総患者数は約36万人。この15年で減少してはいるものの、依然、大きな数字となっています。

年齢別に見ると55歳以上が多く、特に65歳以上の高齢者は全体の約半分を占めています*。

*厚生労働省「平成23年患者調査」より

潰瘍の進行

- ① 浅い潰瘍。びらん
- ② 粘膜のみの潰瘍
- ③ 粘膜下層までの潰瘍
- ④ 筋層にいたる潰瘍
- ⑤ 胃壁に孔があく危険あり



ピロリ菌除去で胃潰瘍と胃がんを予防

ピロリ菌は、胃の粘膜に住む細菌です。主に免疫力の低い子どもに感染し、一度感染すると、除菌しない限り、胃のなかに住み続けます。大半の人はピロリ菌があっても病気になりませんが、ストレスなどの負荷がかかると慢性的な炎症を引き起こし、胃潰瘍や十二指腸潰瘍の原因となるほか、胃がんのリスクを高める危険因子のひとつでもあります。

日本では、戦中・戦後の衛生状態の悪い時代に生まれた年代の感染率が高くなっています。感染している場合、若い頃は平気でも、高齢になって症状が出ることもあります。

ピロリ菌は尿、組織、便、血液等を調べれば分かり、見つければ薬を服用して除去します。胃潰瘍や胃がんの予防のためにも、きちんと検査することをお勧めします。



胃の粘膜の表面に付着し長く住み続けるピロリ菌

ドクターからのメッセージ MESSAGE FROM DOCTOR

内視鏡検査で早期発見を

内視鏡検査は、がんの早期発見はもちろん、胃潰瘍や逆流性食道炎の診断に有用です。2013年4月には最新機器「NBI内視鏡」を導入、通常では見逃してしまうような微細なものも捉え、がんなどの発見率もさらに高まっています。早期発見、早期治療のために、積極的に活用されることをお勧めします。



内科部長 吉川武志



内視鏡検査で見つかった胃潰瘍。粘膜がほられ、潰瘍は血管まで到達し出血が見られる



部門紹介 第7回【栄養科】

●食事の管理や指導も「治療」のひとつ

管理栄養士が食事に関してサポートを行う部署です。仕事の内容は、入院患者さまの献立づくり、個々の症状に合わせた特別食の手配などさまざま。特別食は糖尿病食、腎臓病食、肝臓病食、検査食など10種類以上で、嚥下障害の方には「きざみ」「ミキサー」でひと手間加えたり、お茶にとろみをつけたり、きめ細やかな配慮をしています。また外来

患者さまには、必要に応じて食事の指導も行います。食事はすべての基本です。食事の管理や指導は、「治療」と同じくらい大切だと考えています。



ある日の献立



管理栄養士 澤柳玲子



患者さまには食事の制限がいろいろありますが、それでも「入院中の食事が楽しみ」「おいしかった」と言ってもらえるよう、毎月新メニューにも挑戦しています。新人の頃、職場の先輩からの「風邪を引くと味見もできなくなる。管理栄養士は元気でいることが一番大切」という言葉を肝に命じ、自分の健康管理にも気をつけています。

私とやまぐち

「私がこの病院に生涯を捧げようと思った理由。」

10代で親元を離れ、山口病院の寮に入り、専門学校へ通いながら病院勤務をしました。当時は山口病院の6階に寮があり、理事長(当時院長)と奥様は私にとって親のような存在でした。まさにこの病院に育てていただいたと思っています。理事長はいつもこう言っていました。「患者さんには日曜も祭日もない。1年365日いつ症状が出ても診る病院がなければ行き場がなくなる。どんな患者さんが運び込まれても対応できるよう勉強しておかなければならない」と。病院に来た人はどんな人だろうが、すべて受け入れる。深夜の手術も自ら執刀される。そんな医療に捧げるお姿を拝見し、この方に生涯つ

いていこうと心に決めました。看護師は楽な仕事ではありませんが、理事長に反した生き方だけはすまいと今日までやってきました。山口病院と出会ったからこそ、今の私があります。今後は、この素晴らしい病院がずっと続くよう、理事長と院長から学んだことを後輩にバトンタッチしていきたいですね。

Profile

看護部長 中川薫子

大分県出身。1976年に入職、准看護師学校に続き正看護師学校で学びながら病院勤務。81年に正看護師となる。2007年、看護部長に就任。

